夕刊
新京日日新聞
定價 一部 金三錢 一箇月 金八十錢 郵稅 一箇月 金十五錢
新京永樂町四丁目一番地 發行所 新京日日新聞社
發行人 十河榮忠 編輯人 松本男 印刷人 谷啓二郎

我が陸軍で『熱量食』に成功
戰時に大效果を齎す

〔東京廿七日發國通〕兵士が適度の活動を續ける戰時に於て必要な食糧を熱量に換算すると四千カロリーを必要とするが現在滿洲にある皇軍將士が携帶して居る一日分の糧食は平時並の三千カロリーしかなく陸軍省ではこれを重大視し糧秣廠では昨年來研究の結果、此の程遂にこれが目的達成の食糧政策に成功したので熱量食の假名を附しこれを戰線で實地試驗を行ふ爲め數萬個を試作し廿六日關東軍へ發送した、此の熱量食は主成分として、バタ、葡萄糖、イースト、デシチン、綠茶の巧妙な調合に成功したものであつて、ゴールデンバツトの三分の二位の小箱に包裝され一個の含有熱量二百カロリーで三個携帶せば充分一日分が足りる

陸軍中央部高等官 國防獻金申合せ
總額十萬圓を突破せん

〔東京廿七日發國通〕陸軍中央部高等官及同待遇者が俸給額百分の三を據出し國防兵器獻納を申合せた處その第一回として去る廿三日經理部に集つた獻納金中に秩父宮殿下、閑院宮殿下、梨本宮殿下、東久邇宮殿下、賀陽宮殿下より現役將校の御資格にて御出金遊ばされた分あり陸軍當局では恐懼して居る、各師團でもこの趣旨に基き獻納準備中であるが二月上旬には第一回分全部集りその總額二萬圓に上る豫定で第三回分まで合すると六萬圓之に北支、朝鮮、關東軍の獻金を合すると十萬圓を突破するであらう

武藤全權歸京

大連旅順の關東廳管內を巡視中であつた武藤大將は二十六日午後七時五十分着の列車で無事歸還した

中東鐵路東部線 運轉增加

中東鐵路東部線の一面坡ポグラニチナヤ間の旅客は近來著しく激增せるため、中東鐵路局では去る廿二日より同區間に限り一週四回宛臨時列車を運轉して居たが右臨時旅客列車は來る廿八日限り廢止し廿九日より現在運轉のハルビンポグラニチナヤ間第三、第四列車の運轉日數を增加即ち現在の一周三回運轉を五回運轉に增加する旨中東鐵路局より滿國に通告して來た因に第三、第四列車の運轉日時は左の通りである

△ハルビン發ポグラニチナヤ行、第四列車
火、水、木、土、日（一週五回）ハルビン發八時二十分 ポグラニチナヤ着翌三時四十五分

△ポグラニチナヤ發ハルビン行、第三列車
月、火、木、金、土（一週五回）ポグラニチナヤ發二十時三十五分 ハルビン着翌十四時二十分

宇佐美顧問に大綬章

〔東京廿七日發國通〕首相は廿七日午前九時半宮中にて鈴木侍從長と會見今回滿洲國顧問となつた宇佐美前資源局長官に旭日大綬章下賜を內奏したが同日午後左の如く御沙汰あらせられた
正三位勳一等 宇佐美勝夫
授旭日大綬章

（光の村）建設の岡崎君
首相に素願を訴ふ

〔東京廿七日發國通〕千萬長者父君岡崎久次郎氏を說得して百萬圓を投出させ一燈園主西田天香氏の指導で惱める人の爲に「光の村」を建設せんとする岡崎俊郎君は例のみすぼらしい登山服で二十七日午前九時半首相官邸を訪れた、玄關前に跪まづき、同君の積年の主張相續稅倍額案の陳情書一卷を捧げたが首相は態々玄關にあの白髮童顏を現はし進んで俊郎君に握手を求め、「貴方の健全な意見や行動は新聞でしつてる折角身体を大切にして下さい」と激勵したので俊郎君は非常に喜んで引き上げた

增資問題に關し 八田副總裁 下關で語る

〔下關二十七日發國通〕舊臘政府に增資試案を提出した八田滿鐵副總裁は愈々政府とこれが最後の決定打合せをなすべく二十七日朝下關入港瑞格船で來關午前九時發の列車で東上した、上京の上はかねて上京中の林總裁とも協議重役會議を開催決定することとなつた、右につき八田氏は語る
世上增資額を八億八千萬圓とも九億圓とも傳へてゐるが根本は增資の方法即も政府が半分もつてくれるかどうかといふことさへ決まれば後は用意だけだ

惜まれる林分隊長

〔四平街支局發〕四平街憲兵分隊長林清氏は這回ハルビンに榮轉不日赴任を見るが同採大尉の後任としてチ、ハル憲兵隊管下寧安憲兵分隊若林大尉が來任の筈、林分隊長は昭和五年の秋當地憲兵分遣隊が分隊に昇格第一代の分隊長として着任、分隊としての內外陣容の樹立に努力する處あり、滿洲事變突發するや機に臨み變に應じて大事を處し分隊直轄は言ふに及ばず昌圖、開原遼〔…〕家屯、奉天城內等の治安維持に萬全の實績を擧け其の識見人格等悉く一般の敬慕の的となつて居た事とて這次榮轉の內報を傳へ聞く日滿官民は此の轉出を心から惜んで居る

莫德惠一行 近く歸國

〔ハルビン廿七日發國通〕モスクワより當地に達した情報によれば三、四年滯露中の露支會議支那側全權代表莫德惠氏一行は露支國交復舊の結果近く愈々モスクワを引揚げ歸國する事となつた右は駐露支那外交代表として顏惠慶氏が任命された結果莫德惠氏一行の滯在が不必要となつた爲めである

發送貨物

二十六日新京驛發送貨物左の如し

驛	品目	數量
新京	大豆	三三六〇
	計	三三六〇
中東	大豆	三二一〇
	豆粕	四〇〇
	其他	二二
	計	三六三二
吉長	大豆	四二九〇
	高粱	九〇
	豆粕	一八八
	雜穀	三六〇
	木材	二三
	其他	七四
	計	五〇二五
總計		一二〇一七

（舊正月にて大豆外の積込貨物なし）

明け行く大黑河へ（一）
嫩江にて 北太市

馬占山の後釜として大黑河に單獨居殘つた例の徐景德、蘇炳文の沒落を契機として舊臘歸順を表明して來たが江省政府屢次の督促にも拘らず、一向に出て來ない、出ては來ないが何方からどう見ても既に全く絕對絕命だ、又その兵權を早くも投出し、接收は何時でも御隨意にと關係各機關を閉して了つたあたりの態度は滿更ら僞はりとも思はれない さは言へ東支東部線より先にといふ豫定が遂に年をまたがつて了つたのだし、高が一千足らずの田舍軍隊、若し萬一抵抗でもしたら其掃でたゝき潰すばかりだといふ譯で、江省切つての精銳周作霖氏配下の騎兵部隊を露拂ひとし、關係各機關接收員集つて有無を言はさず乘込む事になつた

一行は周司令（部隊は先發）とその軍事顧問北部大尉の外、横井特務機關長、郵政、電政、稅關、中央銀行の各接收員、國際運輸の視察員等、それに記者を加へての廿二名だ、十八日チチハル江驛發列車で一路拉哈へ！思へば此の行、他所で、曾つてその例を見ない皇軍拔きの大行進である、一面甚だ心細いが又一面それ程に日滿當局から信任されて居るかと思ふと、その周司令が殊の外賴もしくも考へられる

ここ北滿のはて、折柄の嚴寒に、動もすると人も馬もすくみ勝ちだが、一行を始め、先鋒省軍將士の意氣は物すごく萬難を排して滿洲國建設史の一頁を飾らんものと互に勵まし合ひ、今や默々として北進を續けて居るのだ

□

午前十一時四十分拉哈着、周司令、横井機關長、北部大尉は直ちに差廻しの自動車で駐屯石川○隊本部を訪ひ、接收員組は用意のトラックで劉商務會長宅へ、トラックは全部で五臺他は全部荷物で一臺丈け乘用に充てられる事になつたが、十七名だけで全くの「すし」詰め、身動きもならない前途の一週間が思ひやられる

晝食後、二時愈々第一日の豫定行程として訥河へ向ふ、馬占山系軍潰滅にあらゆる辛慘をなめた皇軍血戰の跡をしのびつゝ、零下卅余度の寒風を衝いてひたむきに疾走する六臺の自動車が互にまき上げる砂塵ですぐ前の車体さへも認め難い、時に横つ風に吹き拂はれた眼界には、たゞはてしなく起伏する、凍てついた廣原のみ、全く無人の國に來たやうだ、四時廿分無事夕闇迫る訥河へ入る、直ちに今宵の宿泊所たる中央銀行支店へ

□

周司令は旅の疲れも癒せず、直ちに國前移駐して來たといふ徐景德の舊部下將校四十名を引見、その一人々々に就いて懇懃に氏名年齡を質した上、今後滿洲國の干城として立つ上の心得を、かんでふくめるやうに說いて聞かせる、その滿洲國建設の意義を說き明かすあたり、思はず襟を正さしめられた、終つて此部軍事顧問も、次のやうな訓示を與へた

「諸君は今度滿洲國隨一の名將周司令の部下となつたが徐景德が久しきに亙り反滿態度を持して來たのは、要するに大勢を知らず、滿洲國建設の意義に徹底しなかつたからであると思ふ、諸君は宜しく活眼を開き今後は進んで滿洲國の爲め協力一致忠勤をはげんで貰ひ度い、云々」

□

明くれば十九日、天氣は良いが風の冷いこと話にならない午前十時半周司令は新にその麾下に入つた步兵第八團の閱兵を行ふ、劍光帽影今日を晴れと整列して威容五百に足りない數だが一兵卒に至る迄緊張そのものゝ色を浮べ少からず賴もしく思はれた

十一時半訥河を出發、我が自動車隊は白雪の點綴する黑河街道の死の沈默を破つて驀進を續ける、途中喀迷哈、伊拉哈等で小憩、四時四十分嫩江に到着した、暮色蒼然たる裡にも平和と正義の象徵たる我が滿洲國旗が隨處にヘンポンとして翻り言ひ知れぬ懷しさを覺えしめられる、お集ひ來る住民の歡喜の色を見よ、過去一年數ケ月暴戾飽くなき反滿兵匪に虐げられ萎靡退嬰全く生氣を失つて居た彼等の上に今こそ王道の惠みが降り注がれ始めたのだ、オズオズと自動車に近つき傷はるべき身をもつて反つて旅の我等を犒ふそのいぢらしさ全く淚無くして見られなかつた

怪人凱歌（百三十）
（禁上演映畫化） 須藤鐘一 作 （畫）瀧秋方

祕密（十二）

話しは少し後に戻るが、千鶴子の窓から投げた手紙は、僥倖にして酒屋の小僧の手に拾はれた。

酒屋の小僧は、いつか近所の長屋で、おかみ連を相手に、怪しい佛像製造所の噂をした事がある位で、平常て此の家に對して、異常の好奇心と興味とをもつてゐるのである。

從つて、毎朝御用聞きに御意先をまはる時でも、夕方、注文品を配つて步く時でも、なるべく此の製造所の横丁を通るやうにしてゐた。多少、まはり道になるやうな時でも、彼はかまはず此の横丁を通つて見ないと氣がすまなかつた。

そして、トタン塀の外にぼんやり立ちどまつて、美しい女が幽閉されてゐると聞く二階の窓の方を見上げながら、いろ／＼少年らしい空想にふけるのだつた。……

若しや、あの二階から哀れな女の一人が、窓を破つて逃げ出して來たら、どうしよう？ すぐに交番へ連れて行つたものか。それとも、自分の力で女を救ひ出して、匿まつてやつたものか？

その女が、どこか良い家の令孃であつて、自分が其の親許へつれて行くと、非常に感謝され、どつさり御馳走になつた上、歸りがけには澤山のお禮の金をくれる、といふやうな場合がないとも限らない。……又、ことによると、其の女が美しい、おとなしい心の持主で、しかも歸つて行く先がないので、一しよに家をもつてくれと云ひ出したら、どうしよう？……こんな小說的の空想に耽りながら、ニヤ／＼獨り笑ひをもらしてゐたが、ふと足もとに視線をおとした時、彼は木の葉の間に交じつてゐる小さな西洋封筒を見出した。

彼は何がなしにハッとしながら手早く拾ひあげて見ると、表には『之れをお拾ひの方はどうぞ宛名の方へお屆け下さい』と、女文字で記してある。

之れはテッキリあの二階の室に監禁されてゐる女の書いたものに相違ないと考へると、彼は何故ともなく、あたりを見まはしてから、それをそつと自分の懷中に忍ばせた。

幸ひ、あたりに人の影も見えなかつたので、ほつとして急いで其の塀を離れた。

曲り角のところで立止まつて、もう一度二階を仰ぎ見たが、眼隱し板が邪魔になつて、窓內を見ることは出來なかつた。

彼は、それから坂道を驅けのぼつて空地を横切つて自分の店へ歸るのであるが、その空地の中程まで來た時、しきりに今の手紙の中を讀んで見たい好奇心を催した。

で、小徑を離れて枯草の中へ十間ばかりも分け入り、小さな藪かげに達して、そこで初めて手紙を取り出した。

表宛名は、『銀座ヴイナス美容院內藤田眞佐子樣』としてある。

彼は裏の封じ目の隙間へ、爪楊子を入れて、少しづゝ剝がして行つた。すると、糊がよく利いてゐないと見えて、微な音と共に、難なく剝ぎ終つた。

中から小さな紙ぎれが出て來た。鉛筆の走り書きで、恐ろしい家におしこめられてゐるから、救ひに來てくれと、簡單に認めてある。

彼は、讀み終ると、愈々之れは棄てておけないと思つた。此の手紙を書いた女は、きつと賴りない氣持で、萬一を僥倖しながら、宛名の人に屆くのを待つてゐるのであらう。若し、此のまゝ破つてすてられたら、どんなにがつかりするであらう。……斯う考へて來ると彼は、どうしても屆けないでは氣がすまなくなつた。

そこで、再びそれを懷中に入れて知らぬ顏をして店へ歸つた。急いで足を洗つて着物をあらため、裏背戶で夕飯の支度をしてゐたおかみさんに、ちよつと小石川の伯母のところへやつてくれと申し出た。

『何だね、この夕方の忙しいときに？』と、おかみは怪訝な顏をして、つッけんどんに云つた。

『實は、此間行つた時、伯母さんが明日故國へ行くと云つてましたので、ちよつと會つて傳言をたのみたいと思ひまして……』と、彼は出たら目を云つた。

『御飯でもたべて行けよ』と、おかみの云ふのを、上の空で、彼は早々に裏口から飛び出した。

滿洲國軍勇躍 掃匪に大成功
滿洲國軍の信賴深し

老北風は事變以來未だ歸順の意を表した事がなく南滿、奉山兩鐵道の間にあり、四角地帶を掠奪、跳梁を極めた大匪賊團の總頭目とも見らるべき男である、又頭目告點は

＝一度＝は歸順し公安隊長になつたものであるが、武器、彈藥が充實するや再び叛き、海城、營口、蓋平、盤山地方を荒し廻り、殊に昨年八月は營口を十月には大石橋を襲撃し多大の損害を生ぜしめた又本年一月九日には滿鐵本線を爆破し、列車を脫線させ、一月十五日は遼陽南方の鐵道爆破を敢行し、一味李純華は一月十七日渾齒子附近の滿鐵列車妨害をやつた匪首である、殊に李純華は無線電信機を持ち北平の學良と通信聯絡を行つてゐると傳へられてゐる、此等の

＝匪賊＝聯合して治安を濫してゐたが、奉天省警備司令于芷山上將は獨力之が徹底的の掃滅を企て、軍を三つに分ち右翼を傅少將、左翼を王中將にそれ〴〵指揮せしめ、中央は自ら指揮し一月二十日頃より匪賊團を包圍する隊形をさつた、この威風堂々たる奉天軍の陣容に敵は逃走を企てたので、軍は包圍圈を縮少し敵匪の殲滅に努めてゐる、之が爲遼西の匪賊團は徹底的に掃滅され、老北風の如きも辛じて身を以て熱河省阜新を目指して逃走した、我飛行機の上から偵察した

＝報告＝によると奉天軍の討伐跡は滿洲國旅が春風に醉つてゐて農民は安心してゐる模樣である、由來滿洲國軍の極力討伐は一部に於て多少危惧されたが、今回の討伐の結果を見ると更に滿洲國軍の活躍も目醒しいものがあり、やがては國內の治安も之等滿洲國の手によつて恢復される日も近いだらう

同軍及び李秀亭の部隊も一時開魯を目指し前進したが、再び林西及びハルモト方面に向ひ後退して居る、李海青軍は自ら兵力一萬と稱してゐるが實力はその半分にも及ばない模樣である

黃泥河驛に 匪賊 電信係一名拉致さる

廿六日午後六時四十分吉敦線黃泥河驛に二三名の匪賊現はれ、助役の武器を强奪し滿洲國人の電信係一名を拉致し去つた

開魯一帶の空擊に成功す 宮下〇〇隊本部凱旋

〔通遼二十七日國通飯田特派員發〕二十二日午前十時三十分新京から遼へ逆航を衝いてハルモト開魯方面一帶の地を攻擊し所期の目的を遂げた飛行〇〇隊長宮下大佐は〇〇隊本部及び第〇〇隊の全機を從へ二十七日午前九時通遼飛行場發根據地へ歸還凱旋した尙ほ二十四日來行衛不明の草野機の搜査は殘留の第〇〇隊〇機及田中支隊の手によつて空陸協力搜査が續行されてゐるが他方一日も早く發見するため懸賞搜査の方法も考究されてゐる模樣である

開魯附近匪 賊士氣沮喪

魯附近にある匪軍は我軍の爆擊の爲士氣沮喪加ふるに第九旅長崔興斌と李海青との內訌により表面今なほ通遼進擊を占にするも既にその企圖を挫折したるものの如くである又開魯城內にありし僞勇軍は全部城外に追はれ城內には崔興斌の部下のみとなつた、鄧文李芳亭の部隊も一時開魯を目指して前進したが林西ハルモを目指して前進したが林西ハルモ

死體四個を 遺棄退却

〔通遼廿七日發國通〕前日開魯方面爆擊に出動して行方不明となつた草野機が通遼の西方二十里道德營子南方に不時着陸してゐるとの土人の言により我が陸上搜索隊は二十六日未明當地出發午前十一時頃道德營子に入らんとしたところ敵匪の監視部隊が一齊射擊をなし、直ちに之に應戰擊退した、敵は死体四を遺棄、多數の負傷者を出して退却した

戰友の熱い淚に 二勇士の告別式

〔通遼廿七日國通飯田特派員發〕昨廿六日の威力偵察に於て我に數倍する匪賊に遭遇これを擊退し不幸戰死した上等看護兵渡部廣司君は所屬部隊本部で午前九時から、又航空一等兵吉井正義君は飛行第〇〇隊本部で九時卅分から質素ながらも眞心こめた僚友の手によつて鄭重なる告別式が行はれたが、戰場の事とて僧侶の讀經もなく花輪も供えないが、戰友の熱い淚の告別に英靈は弔はれた

因に同氏の遺骸は本日通遼にて茶毘に付される筈である

草野機よ何處 道德營子附近一帶の空陸協力偵察

〔通遼廿六日國通飯田特派員發〕二十四日來連續空中搜査をなしたるも發見するに至らなかつた草野機の行方について威力偵察のため二十六日午前七時通遼出發、道德營子へ向つた田中支隊の地上部隊と協力掩護、零時五分通遼飛行場を離陸した八木中尉を編隊長とする〇〇〇機愛國機廣島號兒童號は寒氣凛烈朔風吹き荒ぶ中を銀翼を連ねて西方道德營子に向つた

田中地上部隊 激戰詳報

〔通遼廿七日國通飯田特派員發〕草野機威力偵察の目的を以て二十六日午前七時通遼より道德營子方面に向つた田中支隊〇〇の率ゆる〇〇名は自動車數臺の分乘、一路目的地に向つたが、午前十一時道德營子東方二千米に達した際敵の射擊を受け、我軍之に應戰、敵は土壁に據り多數を賴みて頑強に抵抗し、容易に退却せず、激戰後一時間半に亘り零時遂ひに西南方に退却した

この戰鬪に於ける敵の損害は尙は不明なるも相當の數に上る見込み、我軍の損害は戰死二名、重傷二名、輕傷三名である

戰死 上等看護兵 渡部廣司（左胸下部貫通銃創）

航空一等兵 吉井正義（胸部盲貫）

重傷 砲兵一等兵 熊谷文一（左胸部貫通銃創）

砲兵一等兵 鈴木豐治（左膝關節部貫通）

尙は戰死者の死體については本隊の部分を紹介中、重傷者は鐵嶺の衛戍病院に輸送する筈

八木機道德 營子爆擊

〔通遼廿七日國通飯田特派員發〕八木編隊長の率ゆる飛行隊は通遼出發後、十數分、早くも道德營子上空に達するやその時既に地上部隊は道德營子東方二千米の地點に在る多數の敵と激戰中であつたが、來援の機影を發見するや地上部隊からは「危險なり、道德營子を爆擊せよ」との布帆信號を送り、激戰亂鬪した、この信號に編隊長八木中尉は直ちに僚機と共に道德營子に據る敵を空中より攻擊携行の爆彈全部を投下、午後一時五十分

〇〇〇機の 空中攻擊

〔通遼廿七日國通飯田特派員發〕草野機の搜査に向へる八木隊長指揮の飛行機出發より遲れること十分、〇〇〇機〇〇隊も機影を遲ふて離陸道德營子を爆擊、八木編隊機と相前後して午後一時五十分歸還した

搜査一晝夜半 絕望の憂色深まる

〔通遼廿七日國通飯田特派員發〕八木編隊長並に〇〇〇機〇〇隊の歸還報告により地上搜査部隊田中支隊の苦戰を知れる飛行隊本部は俄然緊張し機体に憩ふ間もなく、川守田中尉を編隊長として再び廣島號、兒童號をかつて一時五十分出發、現地上空に向つた此時既に地上部隊の猛擊と第一回空擊により色を失つた敵は早くも西方に向つて退却中我軍は猛烈なる追擊を加へ多大の損害を敵に與へて三時五十分歸還した

因に本日の空陸協力の威力偵察にも拘らず依然は草野機の着陸地點發見されず既に一晝夜半經過せるも搭乘者一名歸還せず絕望の憂色益々深まりつゝある

亞細亞モンロー主義 兒玉右二氏强調

〔東京廿七日發國通〕廿七日の衆議院豫算總會第二日は午前十時三十五分開會前日に引續き小川鄉太郎氏（民政）陸軍計畫、滿洲事件費稅制整理、通貨統制諸問題で高橋藏相と渡り合ひ午後〇時十五分休憩同一時四十七分再會小川氏再び民營對策を質問し後長島隆二氏（政友）外交問題の各方面に亘つて詳細に內田外相に質問代つて兒玉右二氏（政友）亞細亞モンロー主義を强調齋藤首相に政黨政治を認めるかと問ひ之に對し首相は認めてゐる旨答へ、續いて喜多孝治氏（政友）滿洲問題を國際聯盟に持ち出したのは外交の失敗なり、外相は責任者ではないか所見を問ふと述べ之に對し外相は質問の趣旨は諒承するが出來ると答へ、尙滿洲獨立問題で二三質問し、同四時五十分散會した

重要打合せに 梅津少將等錦州へ

〔錦州二十七日發國通〕參謀本部總務部長梅津少將並に松本大佐、牟田口中佐、關東軍の齋藤大佐一行は二十六日正午奉天から飛行機で錦州に來着し、錦州部隊首腦部と重要會議を行つた、一行は二十七日朝山海關に向ふ豫定

反張氣分爆發 不穩な計畫暴露す 北平當局極秘に附す

北平一帶は反張氣分が濃厚となつた事は事實であるが最近僞勇隊の一部に不穩計畫ある事判明、直に百二十名を逮捕監禁中であるが、北平當局はこの事件が外部に洩れる事を極力避け此種陰謀に一層嚴重なる警戒に努めてゐる

河叙甫は每月四十萬元を交附して中央の統制に附せしめる事を成功してゐると云つてゐる

張作相を 僞勇軍、土着軍の司令に

學良は熱河にある僞勇軍、土着軍を北平軍事分會で統一し張作相を起用し之に當らしめ湯玉麟、鄧文、李海青軍を正規軍に改編すべく發令した、河淸明は熱河軍を買收すべく懸命の努力を續けてゐるが、さして賢明な策であらふ

旅長崔興斌 林西逃亡計畫

我軍の爲出身を挫かれた開魯方面の匪軍は戰意を失ひ第九旅長崔興斌の如きも側近の者に自分は日子の關係で直に歸順は出來ないが日本軍が進擊して來たら林西方面に退却するさ洩し、既に家族及家財を林西に送り保身に努めてゐる、蒐し彼等は今日迄營々として積み上げた五十萬元の材東林西方面の土地であるから彼

僞勇軍の正体 學良正規軍の選拔兵

〔錦州廿六日發國通〕一昨廿四日朝陽寺に襲擊し來れる敵が遺棄せる死体はその襟章より步兵第十二旅（旅長張廷樞）の第六百六團に屬する上等兵任某、砲兵旅（高桑齡）步兵第三十六團第一營第一連上等兵王某及遼寧僞勇軍第四路司令部步尉允某の〇名なる事判明し僞勇軍は正規軍より選拔されたる將兵を以て編成したる兵團にして單に世間体を糊塗する學良一派の手段の一つにすぎぬ事が明瞭になつた

學良が舊正を期し 各軍に進擊令

〔奉天二十六日發國通〕支那側は石河以北に陣地を築き飽くまで挑戰的態度に出でゐるが廿六日北平軍事委員會分會では第三軍長何柱國に舊正月元旦の廿六日を期し灤州以東の全軍を前進せしめ、山海關奪取の爲死を以て總攻擊に移れと密電を發し、一方に於ては孫殿英軍を北上せしめ一部隊は天津方面に集結し居り赤峰建平方面に侵入の準備中である

孫殿英軍は 平綏沿線に

〔天津廿七日發國通〕孫殿英の四十一軍（約三萬）は昨夜來平綏線の昌平、懷來、宣化張家口に移動を開始した、その主力は張家口に駐屯する筈である

何のその 重砲の掩護も 山海關の我軍擊退

〔天津廿七日發國通〕支那側は二十六日を明し攻擊に移り昨日は兩軍とも緊張裡に過し午前一時頃九門口の西方より支那軍は重砲掩護の下に攻擊し來るには來つたが直ちに擊退された模樣である

學良傍系軍 配備、作戰

〔天津廿六日發國通〕先般北平に於て張學良が開催した傍系軍隊配備會議に於て決定した抗日各軍の配備並にその兵力量は左の如くと傳へられて居る

第一路抗日軍は商震を軍長とし炳勳沈克、馮桂滋各軍を合せ兵力四萬五千を以て豐潤玉田古北口の線に配備し、第二路抗日軍は宋哲元を軍長とし宋の部下四萬を承德から凌源方面に使用する、第三路抗日軍は孫殿英を軍長として同軍三萬五千を熱河に入らしめ場合によつては開魯方面に援軍として使用する

北平故宮の古寶物を 學良軍費に換ふ

〔北平廿七日發國通〕熱河省に兵力集中を開始して以來學良は中央政府より三百萬元の軍費引出に成功したが、二十數萬の大軍を集結した今日到底これでは不足とし中央政府に督促中であつたが愈々窮餘の一策として故宮博物館の寶物を抵當に英國銀行に借款交涉進捗、近く上海に於て中央政府の名により借款契約成立するべしと云はれ、北平に兵火の及ぶを恐れ寶物の南方移轉を急いでゐる

蘇炳文を支那に 送る計畫は無い
ス領事人民委員會に打電

〔滿洲里廿六日發國通〕蘇聯マンチユリー領事スミルノフ氏は傳へられる蘇炳文北平送還說に關しモスコー外務人民委員會に宛て左の如き聲明電を發した

ハルビンの諸新聞は蘇聯は蘇炳文一味をタシユケントに新疆省を經て支那に移送せしめんとする計畫ありと書き立て、恰も余が斯くの如き聲明をなした如く傳へて居るが斯る聲明を發したことは斷じて無い、從來マンチユリー領事館よりモスコー宛に發せる電報は常にチタを經由せるに此の噂の原因となつた電報は暗號を用ひず、ハルビン、ウラジオを經由して發送されてゐる、一此點特に注意せられたし

遁入匪軍に 手を燒く赤露

〔トムスク廿六日發國通〕蘇炳文、李杜、王德林等が引率して露領に逃げ込んだ匪數は四、五千に達するが、國民政府はこれが救出しに關して赤露と交涉し旅費を送つて新疆を迂回して歸國せしめんとし新疆省主席金樹石に對して入國の手續きを赤露地方官憲と交涉する樣打電したが、金主席は斯樣な不良の徒が多數入省する時は省民を苦しめるのみならず、場合によつては地盤を奪はれる恐れありとして此れに回答せず、ために蘇炳文以下の逃走匪は進退に窮して露領內で匪賊化する傾向あり、赤露側でもこれが處分に大困りの態であると

今回の來奉は英波石油問題の爲めと言はれるが、歸英に先立ち松岡、松平兩氏の訪問を受け二十分間會談した

日本對聯盟の對立 見當も付かぬ

〔ジユネーヴ廿六日發國通〕聯盟は依然として無氣味な沈默を續けてゐる、聯盟では此の上は日本側から讓つて出なければ接衝の餘地なしとして居り、日本側は先づ聯盟から步み寄つて來るべきだとしてゐる、此間に僅かにドラモンド總長と杉村次長とが時々話を續けてゐるが未だ見當さへ付かぬ模樣

起草委員會は 日本の脫退を好まぬ
報告書の最後的決定は來週

〔ジユネーブ廿七日發國通〕聯盟最高筋より聞くところによれば起草委員の中には日本の脫退を好まぬものも決して少くなく第三項による和協の望みは達し得ずとも第四項による報告により日本を成るべく脫退にまで導くまいとの希望の下に議事を進めてゐるものもあり本廿七日ボイコツトの可否と日本の自衞權につき決まらなかつたのはその有力な證左と解せられて居る從つて報告の第三部まで完了しても十九ケ國委員會は採擇後直ぐには總會に移さず一應これを日支兩國に內示する程度で修正に應ずる用意あるらしくそれは多分來週水曜日前後と觀られその頃又サイモン外相が來てこゝに最後の實質的決定を觀るに至るべしとの觀測が有力である

松岡サイモン兩氏會見

〔ジユネーブ廿六日發國通〕松岡代表は廿六日午後七時五十分サイモン外相をそのホテルに訪問し十九ケ國會議の經過を報告し、ドラモンド杉村案の諒解を求めた後本論に入つたがサイモン外相は十九ケ國會議が第四項の準備を始めた以上今更第三項に戻るには日本側から新條件を提出せねばと暗に拒否の態度を示したが然し成るべく第三項で纏めたい希望に變りないと述べ假令希望は薄ろうとも和協努力を放棄せぬことを約することを申合せ辭去した

九國起草委員會 本朝から公式會議

〔ジユネーヴ二十六日發國通〕十九ケ國起草委員會は愈々二十七日午前十時半公式會議開催

サイモン外相 急に歸國

〔ジユネーブ二十六日發國通〕サイモン外相ブ二十七日重大閣議に出席する爲昨朝來たばかりなりしも、午後十時十分パリー經由直ちに歸國の途に就いた

草野機搭乘者 無事生存か？
匪軍の手中に在る模樣

〔通遼廿七日國通飯田特派員發〕開魯商人代表及び〇〇〇の代表は本二十七日午後五時通遼特務機關を訪問、田中特務機關長と數刻に亘り何事か會談する所があつた會談の內容については田中特務機關長は口を緘して一言も語らないが記者（飯田特派員）が得た各方面の情報から推察するに開魯の商民並に匪軍の一部には王道政治を憧憬してゐるものもあるので之に關し何等かの交涉があつたものと思はれる

一方草野機の行衛については既報密偵の報告によるチヤラントラガイ西南方十支里の一棵樹附近に一時着陸したことが事實らしく、また不時着陸後三十分にして灰色の煙り立上るのを見たといふ事實から推して着陸後發火したものではないかと想像され、搭乘者は着陸當時は無事で草野大尉以下五名は匪軍の手に保護されてゐる模樣で、商民代表等の來訪により草野大尉以下搭乘者保護送還の手配について打合せがあつた模樣で廿二日中には搭乘者の安否も判明されるものと信ぜられる

滿洲國外 交代表處 露滿國境滿洲里に開設

〔ハルビン二十八日發國通〕滿洲國外交部は近く外交部公署を滿露國境の滿洲里に開設する豫定である

板垣特務機 關長歸滿

〔大連廿七日發國通〕奉天特務機關長板垣征四郎少將は本日午後二時入港の奉天丸で歸滿遼東ホテルに投宿した

高地少佐 憲兵司令部に榮轉

新京憲兵分隊高地茂都少佐は今回憲兵司令部に榮轉するに決した、後任はハルビン特務機關原松一少佐

世界經濟會議 準備委員會

〔ジユネーヴ廿七日發國通〕十九日よりジユネーヴで開會中の世界經濟會議準備委員會は左の三項を決定した

一、世界經濟會議々長に英首相マクドナルド氏を委囑す

一、會議の招請は三ケ月の豫告を與へること

一、準備委員會は三ケ月以內に開會す

人事往來

▲瀨戶中佐（關東軍野戰航空廠長）二十八日午前八時新京[illegible]

▲飯島中佐（大連工業學校[illegible]事務官）同上

▲德楊顧氏（京師憲兵司令官）二十八日午前八時半吉林へ

▲金卓氏（執政府侍從武官）同上

▲依里春氏（中東鐵路管理局副局長）同上

▲報知新聞社靑年慰問團[illegible]利一氏外三十名二十八日午前九時五十分公主嶺へ

團体

氣溫と天氣

明日南西の風晴れ、今日最高零下八度六最低零下二十一度一

滿洲國政府

出年額二千萬圓、滿洲國の一大財源たる柞蠶糸の增產を計ある農民經濟とは密接不離の關係にある事即ち重要なを顧しかくて一般に其の購買力を增進する事 絹紬の販路擴大に伴ひ其生產性を增大せしむることに着目、策として（イ）匪賊の橫行を憂慮しつ東邊一帶の山地の如き交通不便の地に生産せられ（ロ）現在の飼育地及工場の調査をなし進んで積極的

滿洲事件費

關聯を有する一般政務に[illegible]合せた後滿洲事件費[illegible] 特別全國大使[illegible] 永井[illegible]

嚇しがきかず 運轉手君負け
强盜の現場に臨んで 氣弱な首都警察廳運轉手

滿洲國首都警察廳サイドカー運轉手楊雲樹（三〇）が二十七日午後八時頃朝日通二十七番地裏通を通り掛つた際吉野町四丁目劉（以下不明）及吉町三丁目王子祥（三六）の兩名がブローニング拳銃を所持する三人組の賊に金品を强要されてゐるのを目擊し、これを助けるべく携へ所持してゐる拳銃を賊に突きつけて威嚇したが賊は反對にやり込め、モーゼル拳銃及彈丸五發を强奪、なほ劉、王の兩名から中央銀行圓紙幣七枚と支那長衣、防寒帽をも强奪し三名を地上に伏させゆう〳〵と朝日通を又點の方へ逃走した、三名の者は直に巡警派出所に屆出たが遂に賊影を發見するに至らなかつた

連絡旅客列車が開原驛金滿子驛間を運行中乘客推定年齡二十五歲前後の滿洲の女が振落され頭蓋骨を粉碎即死した

上海事變一週年 中央放送局の催し

〔東京廿八日發國通〕上海事變一週年を記念して東京中央放送局では廿八日午後七時半から一週年記念の夕を行ひ事變當時の上海陸戰隊指揮官鮫島大佐の「事變勃發當時の村井前上海總領事の「上海事件を回顧す」と題する記念講演を放送、八時二十分から戶山學校軍樂隊の吹奏樂軍歌合唱、爆彈三勇士等々放送

けふ眞ツ晝間 モスコー火事騷ぎ
女給さん煙でフラ〳〵

二十八日午前十一時十分頃市內東四條通カフエーモスコーから發火見る〳〵內に煙は天井裏を一面にはひ廣がり大事に至らんとしたが急報に接した消防隊、警察官の努力によつて十一時五十分頃鎭火した原因は昨夜からたきづくめの暖爐煙突から接續してゐる棟木に引火したもので損害も極く輕少で百圓內外と見られてゐる、なほ二階裏に就寢中の女給達がガスにより皆一樣にフラ〳〵として頭をかゝえてゐたのみであつた

檢査は徵兵身体檢査の際、學科試驗は九月十日より開始せらる、因に選拔の上將校となる途あり志願手續の詳細に關しては關東軍司令部兵事班が各署館の兵事係に承合するがよい

振落されて 滿洲婦人即死

二十八日午前零時三十一分頃大

苦力小屋燃ゐる

二十七日午後五時二十五分頃陸軍官舍西方の苦力小屋より發火したが消防隊の活動にて五時五十六分鎭火した、損害は極く輕少の見込で原因はたき火の不始末であらうといはれてゐる

內務省が 東京市政の淨化を計る

街を明るく
新京署保安係が大童で

最近の嚴しい寒さの爲採暖に使用した石炭殼を初め種々の汚物を道路上に投げ出し首都新京として街の風致を害する事著しく、又衞生上甚だ危險が伴ふので新京署保安係では地方事務所衞生係と協力して取締事務員を出し公衆衞生思想の普及に努めると共に街の美觀をそこなはぬ樣注意を與へ、更に門先掃除をも怠らぬ樣嚴命してゐるが、注意を受けた市民にして今日は誰れか偉い人か御通りになるのですかと質問する者があり、其の非常識さと衞生觀念の缺しいのには係員もあきれてゐたなほ市中の塵芥箱も近日中には完備する筈でこの新京を愛する市民自身進んで清潔を旨とする樣留意されたいと齊滕保安主任は語つてゐた

夢遊病者のやうに 人妻、娘の家出
きのふも二件の屆出

新春の訪れに魅つて春の宵に夢遊病者の如く若き人妻、妙齡の娘等の家出が日增に殖へ新京署へは搜索願が引切りなしに舞込んで來る、果して彼女等は何をあこがれてゆくか

▲二十七日の家出二件
▲市內曙町四丁目村田市郞の妹艷子（二二）何れも假名はトランク一箇を所持し二十七日午後十時發の列車で惱みの解決を奉天へ求めて出奔
▲范家屯警察署炊事係西田貞吉の妻菊子（二二）何れも假名は二十三日市內の三笠町バー上海で稼ぐとて出奔其後音信不通の爲二十七日夫が調査に來京したが前記上海には姿を見せて居らず何れかへ家出してゐた

女給さんの國許調べ
長崎バッテン斷然第一位を占む

事變前までは僅かに七、八軒しかなかつた新京のカフエーが滿洲建國によつて生み出された新京景氣に浮れだし、雨後の筍の樣に續々と殖へその數十七軒に達し、宛然カフエー時代の出現を見せてゐるがこゝでエロ、グロのサービスに奉仕してゐる新京カフエー百三十五人の女給さん達を縣別に調査すると左の如くで長崎バッテンが第一位を占めてゐる

長崎二十五名、福岡二十二名、山口十三名、熊本十一名、岡山十二名、大分、廣島、鹿兒島各六名、東京五名、兵庫四名、和歌山、根各三名、北海道、岐阜、宮崎各二名、島取、佐賀、長野、大阪、秋田、愛知、千葉、福井、岩手、滋賀、愛媛、福島各一名、合計百三十五名

新京街頭風景

滿洲國の課長も 蜂の頭も…… 表へ出ろポカ〳〵

華やかな新京景氣、結氷期でさへ、空前の殷賑ぶりを示してゐるが、いよ〳〵解氷麗かな春光に浴すやうになつたら今年の新京はどんなにすばらしい景氣を見せるか殆ど想像も及ばぬものがあるだがその半面には騷擾、猾惡、全く唾棄すべきやうな事態は愈々殖へて行くばかりであらう、現在でさへ、明るみへ出ないいろ〳〵な出來事が夥しくある

×××

ある夜日本橋通りカフエー新長のある横町に曲る角の步道に見苦しからぬ身なりの一邦人が倒れてゐるのを發見した通行人が吃驚して派出所へ知らせやう、斷りすさうめき苦しんでゐたのがムツクリ頭を擡げ、待つて下さい何でもないんです、すみませんが馬車をよんで下さいとの事なのでその通りにしてやると幾度か瞞を沸べつゝフラ〳〵と立上つて馬車に乘つていづくともなく姿を消したが外套も服も泥だらけ

×××

これより先、新長で喧嘩があつた、泥醉して女給にひつからまり、客に因緣をつける傍若無人、居合した者皆が癪にさへてゐるが醉つ拂ひだと見て見ぬふりかゝりあはぬやうにしてゐるさます〳〵橫暴を極める

そこへはいつて來た一團血の氣の多い連中、ナニ滿洲國のどこか知らねへが、課長も蜂の頭もあるか、ちつと冷してやる方が本人の身のためだ、さうだ、やらうか、ウンと眼顏で諜しあはせると、オウすまねへがちよつと表へ出てくんな、ナニ表へ出ろとは無禮千萬俺を誰と思ふ、誰でもいゝちよつとそこまで……と表へズル〳〵、それからポカ〳〵でダーツ

×××

ところで、こんな事件の起るのは南廣場から城內外へかけてが多いのが不思議なくらひ南廣場以北は靜いさうである

廣田警部着任

安東警察署から新京署へ轉任を命ぜられた警部廣田一氏は二十七日着任、關係各方面を挨拶に歷訪

新京鐵道 警備會議

新京鐵道事務所管內鐵道會議は二十八日午前九時から新京驛貴賓室で靑木鐵道事務所長を初め各係長管內各驛長出席開會した

日滿觀光會社近く 創立總會開催

〔大阪二十七日發國通〕資本金百萬圓を以て創立する日滿觀光株式會社は近く創立總會開催の運びとなるか

頭道溝南の空地で 春競馬を決行

新京の春競馬は陽春四月に於て擧行の豫定で馬匹其他準備が着々と進められてゐるが、今度だけは去年やつた頭道溝南の空地でやることに決つてゐると

岡山市の墓地改葬

忠臣藏好評 大入り滿員

あす商業で 珠算大會 參加者多數

人口增加率
昭和七年四月から六月までの

〔東京廿七日發國通〕內閣統計局發表の昭和七年四月から六月に於ける我國の出生並びに死亡數左の如し

（出生）四五一、二九八人
前年同期に比し
二五、四九八人（增）

八幡の住吉

借入れては夥しい修繕費を投じ新規開業の料亭錢の香匂ひが漂ふ、極最近梅月の先、左に曲つた横町に出來た住吉、八幡の住吉樓と云ふのが新京景氣にあこがれての進出、抱藝妓が開彌、時奴を始め十人、その名は一郞、二郞、三郞、五郞、大郞、七郞、八郞、十郞、開彌、時奴、十郞は年增に屬し何れも相當なもの殊に開彌、時奴の二人だけゐたら十人分ぐらひ賑かな噂中、時奴は曙の竹千代姐さんの顏を引き伸ばしたやうだ、あれを縮めたら竹千代と見違へるくらゐ似てゐる、大郞といふ安來節自慢の妓がゐる、こりやア本もものだ、年は若いが色氣ばなれをして唄ふところは一聽に値する、一郞から十郞までの內四郞と九郞と云ふ名がない、シロ、クロと犬か猫

るものが夥しかつたといふ盛況、前篇の頗る出來の良かつたに比し後篇は聊かダレ氣味があつたやうだ、何れにしても知らず〳〵に淚を唆られる映畫、殊に大松竹の男女スター悉くの肉聲が聽かれるといふだけでも興行者が普通映畫の料金の外に特損料八百圓を支拂つて持つて來たといふ値打は充分ある

吉凶禍福

花街

お芝居の卷

凄艶紅涙双（一九一）

鈴木彦次郎作　飛島久繪畫

牛六が、不審の眉をひそめるのも道理。如何に増水の現在とはいへ、はるか下流の與板藩の空舟がこゝ、長岡城外の寺島にながれつくはずはない。

「與板藩！——はゝア、わかつた。さては、昨日あたりから、對岸の大島に陣取つた敵が、小癪にも、與板藩のやつらを案内にたて河をわたらうとして、まんまと失敗した殘骸ぢやないか。」

「なるほど、さうかもしれないあいつらにに、この大河がわたれてたまるものか。」

などと、ひとかど、うがつたつもりで、話し合つてゐる隊士をめがけ、牛六は、いきなり泥水を、ばしやッつと、はねかけた。

「やい、牛六、な、何をするっ、ばかめッ」

「チッ、きつちが馬鹿だ、そんな悠長なたわごとを云つてる場合ぢやないぞ。よく、眼を開けてこの舟をみろ、こいつア川を渡りそこなつて、ぶん流した舟ぢやないちやんと計畫があつて流した空舟だぞッ。」

「なにッ！計畫あつての上だと？——牛六、まだ、のぼせるにやはやいぜ、誰が、この際、大切な舟をわざ〳〵流す者があるかッ」

「あゝさ、水路をさぐるにアこれが第一だ、今にみろ、西軍のやつらこの水路に從つて寺島に上陸してくるぞ！」

牛六、獨りで、いきまいてゐる折りから、やゝ下流にあたる藏王方面に、しきりに、砲勢が聞え始めた

「あッ、昨日は、大島から撃つて捗々しくなかつたので、こんどは藏王にまわつたのか」

「しぶといやつらだ河を越せぬくせに！」

などと、いきりたつてゐるところへ傳令一騎、泥をはねかへして、駈けつけ、藏王方面に於る敵の攻撃、猛烈を極めてゐるから、寺島の守備隊も即刻、援兵に出向かふやうにと隊長、長谷川五郎太夫に告げて去つた

長谷川隊長は、急遽、部下を率ひて、應援に赴かうとしただが、弓削牛六は、頑として動かぬ。隊長に、集まり寄つたる空舟を示し、それに對する彼の意見を述べ、

「隊長、いま、寺島の守備を、固めねば一大事です、藏王方面の敵は、要するに渡河侵入をたすけるための牽制と存じますが」

と、憤慨して、申立てた、長谷川隊長は、さすが、蒼龍窟取立ての人物だけあつて、牛六の一理ある言葉に、うなづいた

そして、空舟を對岸さを、相互にぢいつき、見詰ながら、暫らく、思案にふけつてゐたが、突如、深くうめくと同時に覊隊長松井貢之助をよび

「松井、こりア、大分、考へねば危いぞ、君は隊の半數を率ひて、ともかく、藏王を援けに行つてくれ、俺は一おう本營に駈けつけて、相談してくる、實際、このまゝぢやア、危險だ！」

全く、寡兵の情なさ。主力を朝日山に繰出した今は、會津の援兵は、まことに手薄なのだもし、牛六の推察通り、西軍が大舉、寺島へでもおし寄せてきたら、長岡は、一たまりもない——ただ、大河の増水をたよりに、食ひとめてゐるにすぎないさ、感付いた長谷川隊長は、直ちに、本營へむかつて、馬を飛ばした、つゞいて、松井も兵を率ひて、藏王方面へ急いだ

後には、弓削牛六、ぐつと、眼玉をむいて、川面を睨みつけたまゝ、いつまでも、岸邊にたちつくしてゐる。

南滿▷

驛				
大連開	九、〇〇	一〇、三〇	一六、三〇	二三、〇〇
周水子	……	一〇、五三	一六、四七	二三、二三
金州	九、三三	一一、二八	一七、二三	[illegible]
普蘭店	一〇、二五	一二、四二	一八、〇四	〇、三三
瓦房店	一〇、五六	一三、三〇	一八、三八	一、〇〇
熊岳城	一一、三〇	一五、二〇	一九、五一	二、三〇
蓋平	……	一六、〇三	二〇、二〇	三、三三
大石橋	一二、四五	一六、五〇	二〇、五三	四、二五
海城	一三、二六	一七、三九	二一、二五	五、一一
湯崗子	一三、三七	一八、一二	二一、四八	五、四三
鞍山	一三、五〇	一八、三七	二二、〇四	六、〇六
遼陽	一四、一四	一九、一八	二二、三〇	六、四〇
蘇家屯	一四、五四	[illegible]	二三、一七	七、四三
奉天到	一五、〇九	二一、〇〇	二三、三五	八、一五
奉天開	一五、一五	二一、二〇	二三、四五	八、三〇
鐵嶺	一六、一八	二三、一七	一、二五	一〇、一三
開原	一六、四九	〇、一八	二、二一	一〇、五八
昌圖	……	一、一〇	三、一〇	一一、四四
四平街	一八、〇一	三、一三	[illegible]	一三、〇六
公主嶺	一八、五三	四、四八	六、二三	[illegible]
范家屯	……	五、四六	七、一五	一五、一〇
長春到	一九、五〇	六、四〇	八、〇〇	一六、〇〇
長春開	九、〇〇	一一、三〇	一六、三〇	二二、〇〇
范家屯	……	一二、一六	一七、〇六	[illegible]
公主嶺	一〇、〇一	一四、〇七	一七、四五	[illegible]
四平街	一〇、五一	一五、四五	一八、三〇	一、二五
昌圖	……	一七、一八	一九、五八	[illegible]
開原	一二、〇三	一七、五九	二〇、三〇	[illegible]
鐵嶺	一二、三六	一八、三二	二一、一三	五、〇三
奉天到	一三、三四	二〇、一五	二二、三〇	七、〇〇
奉天開	一三、五〇	二〇、三〇	[illegible]	七、一五
蘇家屯	[illegible]	二一、〇五	二三、一三	[illegible]
遼陽	一四、三六	二二、〇八	[illegible]	[illegible]
鞍山	一五、〇〇	二二、二四	[illegible]	[illegible]
湯崗子	一五、一六	二三、〇八	一、一三	九、四八
海城	一五、三七	二三、三九	一、四一	一〇、一九
大石橋	一六、一〇	〇、三三	[illegible]	[illegible]
蓋平	……	一、一三	三、〇九	一一、五九
熊岳城	一七、〇四	二、〇四	三、五〇	[illegible]
瓦房店	一八、一二	三、一〇	五、二三	一四、二〇
普蘭店	一八、三七	[illegible]	六、〇八	[illegible]
金州	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
周水子	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大連到	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

大正九年十二月四日 第三種郵便物認可

昭和八年一月二十九日 新京日日新聞 (日曜日) 第三千六百二十七號 (一)

新京日日新聞

定價 一部 金三錢 一箇月 金八十錢 郵稅 一箇月 金十五錢
新京永樂町四丁目一番地 發行所 新京日日新聞社
發行人 十河榮忠 編輯人 松本 男 印刷人 谷晉二郎

露國共產黨の一大刷新運動
百餘萬の市民を追つ拂ふ
反黨分子は强制勞働

〔モスクワ廿七日發國通〕ソウイエート人民會議は去る十九日モスクワ、ハリコフ、ペテルブルグの三大都市住民の旅券改革案を公表し二十日より之が實行に取かゝり來る四月十五日を以て完了する豫定であるが右旅券の改正により約八十萬人のモスクワ市民はモスクワより追放され國內他の地方に於て强制勞働に服せしめられる事にあるが三大都市より體よく追放される市民は無慮百萬人の多數に達するだらうと云はれてゐる、今回の旅券改正案の要諦はこれにより各重要都市に於ける反共產黨分子のインテリを一掃し共產黨の一大淨化を圖らんとするにあると云はれてゐる

外人記者の眼に映じたる滿洲
すくすくした氣持

〔新京〕建國第二の春を迎へた滿洲國の現狀を視察する外人の數は最近非常に增加し殊に歐米大新聞通信社は夫々特派記者を派遣し所謂意味に於て世界興味の中心となつてゐる滿洲國の現狀は中國政治、經濟、產業及び風俗等に華々しい報道戰を展開しつつあるが「外人記者の眼に映じたる滿洲」は國際聯盟代表等に見る偏見さはさらになくすくすくとした氣持で動き行く滿洲に對し銳い批判を下してゐる點に於て各方面の注目をひいてゐる

×

二十三日ニユーヨーク「ヘラルドトリビユーン」紙に二日間に亘つて連載された新京通信概要は左の通りである

「滿洲國新國家が三千萬支那人の自發的運動の成果なりや否やは最早アカデミツクの問題にして滿洲國は列强が正式に承認すると否とに拘らず一の既成事實である新京を訪れるものは何人も新國家の極めて眞面目なる事實に打たれざるを得ない今や鐵道建設、貨幣及び敎育制度改革並に工業的企業に對する大計畫が企てられつつある」

と迎べ以下主として敎育制度改良方針に關する鄭總理との會談を傳へ「その間鄭總理は記者の質問に答へ治外法權問題は財政及び銀行改革匪賊討伐等の國內問題に忙しき新國家當局自らよりすれば重要問題に非ず、外國人の法權はその本國政府が滿洲國を承認すると否とに拘らず之を尊重すべしと答へた、又武藤大將は〇〇運動は現在眞劍に考慮せざるべからざる程有力なるものとは考へないと語り鄭總理同樣滿洲國の現政治組織はこゝ暫く變更すべからずとの意見を持してゐる」

×

と報じ更に第二回通信は專ら滿洲國中央銀行に依る貨幣制度の改善を傳へ冒頭に於て「中央銀行は過去六ケ月間に於て滿洲の複雜なる貨幣制度の統一及び安定につき賞讃に價する進步を示してゐる、新貨幣の相場は大なる變動なく現在地方相場に於て支那銀ドルよりも四パーセントの高率を示してゐる近時日本圓が支那に對する關係に於て下落せるに拘らず滿洲圓が若干の高騰を示したるは滿洲國新貨幣に對する一般の信賴を物語るものである」

×

と、又二十四日「ニユーヨークタイムス」に掲載せられたアベンド氏の奉天通信概要は左の如くである

「過去七ケ月に亘り日本が滿洲の秩序の恢復に多大の進步を示したことは大連奉天間を一瞥したのみでも明瞭である、今や在滿日本首腦部は支那人の習慣と心理とをよく把握し敗殘兵及匪賊の掃蕩に着々成功しつつある」

發送貨物

二十七日新京驛發送貨物左の如し

	品目	數量
△新京	大豆	三,四五〇
	其他	一三
	計	三,四六三
△中東聯絡	大豆	四,七〇〇
	木材	七〇
	其他	一四
	計	四,七八四
△吉長連絡	大豆	二,八五〇
	豆粕	九一
	雜穀	九六
	木材	一五
	計	三,一五二
總計		一一,四〇九

尙ほ昨日の新京管內の發送貨物總噸數は一萬二千六百二十一噸で使用貨車七百六十九車輛に及び本年度の最高レコードを示した、右は舊正月で撫順の石炭輸送を休んだ爲貨車が廻送され從來の滯貨の大捌を行つたものである右內譯は

品目	數量
大豆	二〇七六〇
高粱	一五〇
玉蜀黍	一二〇
豆粕	二七二
雜穀	二五九
木材	二八五
其他	八七四

十二月中の新京財界概況(中)
新京商工會議所調査

高粱、取引品先物取引は月初め六圓四十五錢にて二車の手詰商內ありしのみ、現物は六圓六十錢と强氣に手はれ、尙大連に於ける南支筋の買物に漸增、月央の銀安、大豆高に隨伴して八圓トダの高値に躍進せるが、年末には買氣杜絕に七圓搦み迄低落氣配讓弱程に越年せり新京驛發送は一五〇ハキにして前月の皆無に比し一五〇ハキの增加より前年同月に於ける出來高、發送高、現物相場等の比較は左の如くである

種別	本年十二月	前年十二月
取引品現物出來高	三八車	五〇車
同先物出來高	二車	一〇一車
新京驛發送數量	一五〇ハキ	二五五〇ハキ
現物平均相場(鈔票建)	七圓十九錢	五圓十六錢

綿糸布前月以來銀價は低落步調となり爲め相場は漸落を來し商內閑散に終始せり、主要品の前月との對比相場の左の如くにして、尙銀月は關稅の關係にて最近全く入荷を見ざるに至りしを以て、本月より之を削除せり

種別		上旬	中旬	下旬	最高	最低
綿糸雙雁	十一月	三五三,〇〇	三五五,〇〇	三六六,〇〇	三六九,〇〇	三六六,〇〇
	十二月	三六六,〇〇	三六六,〇〇	三六六,〇〇	三七〇,〇〇	三五五,〇〇
單糸涼塔	十一月	三三六,〇〇	三二九,〇〇	三三三,〇〇	三三五,〇〇	三二四,〇〇
	十二月	三三二,〇〇	三三一,〇〇	三三〇,〇〇	三三三,〇〇	三三〇,〇〇
粗布	十一月	七,八〇	七,八〇	八,四五	八,六〇	七,六五
同	十二月	八,四〇	八,三五	八,二五	八,五五	八,三一
細綾人面	十一月	六,五五	六,四〇	六,六五	七,九〇	六,五〇
	十二月	六,八〇	六,八五	六,八五	六,九五	六,八〇
細布軍人	十一月	九,三〇	九,三〇	九,五五	九,六〇	八,六〇
	十二月	九,四〇	九,三五	九,一〇	九,四五	九,四五

種別		上旬	中旬	下旬	最高	最低
細布採球	十一月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
	十二月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
大尺布人抱魚	十一月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
	十二月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

木材建築材も過ぎ斯界は頓に閑散となり各品共前月に比し相場は幾分低落せるも右は在荷拂底の爲め良材に乏しき關係にして來年度の建築界極度の繁忙を豫想され乍ら冬期間の伐り出し作業が懸念され居る爲め目先は强含しと見られて居る

品種		單位	十一月末(錢)	十二月末(錢)
紅松	柚角二間物	一才	九〇	七二
同	同 四間物	同	九六	八四
同	挽材	同	一,三〇,〇	一,四〇,〇
同	四分板	一坪	一,七〇,〇	一,五一,〇
同	大分板	同	二,三〇,〇	二,四〇,〇
白松	柚角二間物	一才	五四	五一
同	同 四間物	同	六五	五四
自松	挽材	同	九六	八四
同	四分板	一坪	一,三〇,〇	一,五〇,〇
同	六分板	同	一,七五,〇	一,六〇,〇
胡桃	柚角	一丈	一	一
曲地	同	同	四〇,〇	三六,〇

砂糖特產搬入の馬車出廻り增加に從つて返り荷として需要增加し商內殷盛となるに至り相場も堅調を呈し中旬以後は前月に比し十錢方昂騰せると月中の驛到着數量は一、五九五噸にして前月より五六五噸を增加せり

會社名	商標		上旬(錢)	中旬(錢)	下旬(錢)
砂糖	J印	十一月	一九,七〇	二〇,〇〇	一九,七〇
		十二月	一九,六〇	一九,七〇	一九,六〇
同	N印	十一月	一九,三〇	一九,五〇	一九,三〇
		十二月	一九,三〇	一九,四〇	一九,四〇
同	SH印	十一月	一八,九〇	一九,二〇	一八,九〇
		十二月	一八,八〇	一九,〇〇	一九,〇〇

委員會報告書 二月四日迄に總會へ

總會は十九日以後に開會 形式は英の提案通り

〔ジユネーヴ廿七日發國通〕九國起草委員會は廿七日午後の會議で非常に進捗し、二月四日迄に報告書草案を總會に提出、二月十九日以後の二週中に總會開會と見られるに至つた、報告書の形式は英國代表の意見が通り、單一形式となり

第一前書、第二事實の敍述(歷史的部分)第三結論、第四勸告

の四部から成り要旨は左の如し

第一は序論を構成し、簡單に報告書の趣旨を說明し、第二は歷史的部分で事件の經緯、聯盟の審議經過をリツトン報告書最初の八章を基礎とし極東の領事團の報告を參照して詳述したもので既に起草を終り廿八日更に非公式會議で讀み合せをする事になつた

第三は事務局案を議論の基礎とし相當紛糾した部分で十二ケ條より成り主としてリツトン報告書九章その他を採用したものである十二條中特に注目さるべきはリツトン報告書の第六章滿洲國第一節末項の「滿洲國成立に對する點」を採用して居る點である、別項本日午後の會合で遂に決定を見るに至らなかつたのは支那の日貨排斥運動並に柳條溝事件以後の日本軍の行動に關する調査團でも激論の出た點で委員會でも議論紛糾した、第四は所謂第十五條第四項適用の勸告で最も激論を鬪はされる部分と見られる事務局案はリツトン報告書の九章中の十原則と第十章中の提議とを基礎とした案を樹てゝ居り結局リツトン報告書の第十章を基礎としたものに落着くと見られるがリツトン報告書の勸告案は和協手續きを基調としたものであり第四項による報告書による勸告としては之に相當重要なる變更を加へる必要が生ずることは勿論である、勸告案の決定については特に十九ケ國委員會を開會してその支持を受け更にその承認を經る必要がある來週早々十九ケ國委員會が開かれると見られる

最後的態度決定の爲 代表全体會議

第四項報告內容が分水嶺

〔ジユネーヴ廿七日發國通〕廿七日午前十時十九分我代表部は全体會議を開き、杉村次長、松平大使其他も參加し、松岡氏等日英會見の結果につき報告し日本の讓步條件とする和協の望はこちら側から御免蒙り、滿洲國の現狀否認條項に同意なき限り第三項による和協可決は事實上放棄されたと同樣と解せらるゝに至つた模樣で第四項報告と勸告の內容如何が我最後的決意が大河の分水嶺なりと目標をたて政府と緊密な聯絡をとり一路邁進する事に意見一致した

勸告書の起草 來る卅日より開始

〔ジユネーヴ廿七日發國通〕午後の起草委員會は第二部までの起草を終り、午後七時卅分散會した、次回は多分卅日より勸告書起草に入る豫定である

二十七日の豫算總會

兵備問題の花が散る

〔東京二十七日發國通〕二十七日兩院は本會議を休み、衆議院は豫算總會第二日である午前十時三十五分開會、引續き小川鄕太郎氏

第二次補充計畫を閣議で決定せりや、經費全體決定せりや

大角海相 八年度補助艦艇建設費千五百萬圓は閣議で決定、九年度以降第二次補充計畫は全體が出來ると信ずる、然し經費全體は承認を經てゐない

小川氏 首相の所感を質す

齋藤首相 第二次補充計畫はまだ論ぜられて居らない八年度の兵備改善費は緊急止むなきものを計上した

小川氏 陸相は滿洲事件費を將來平面化する（經常費）と言はれるが、斯かる負擔は日本のみで負擔するや、陸軍兵備改善費、九年度以降の計畫如何

荒木陸相 現在列强の裝備國防の必要から見れば五億數千萬圓要するも、財政上止むなければ現在の四億一千萬圓既定計畫で二ケ年間に裝備を完備したい、これ以上は考へてゐない、滿洲事件費は將來日本のみで負擔すべきものと思つてゐない、昭和十年になると日滿議定書による國防計畫が完成する

小川氏 それが完成し事件費が平面せば一ケ年經費如何か

陸相 一ケ年七千萬圓程度か、これについても彈力性ある計畫を考へてゐる

小川氏 軍事費の將來減少考へられず政府はこれに對し歲計收支の均衡努力として財政、稅制行政の三大整理斷行の意思ありや

首相 相當の時期に着手の考へである

藏相 增稅計畫は九年度から斷行し得ると思ふ

小川氏 稅制整理方針如何

高橋藏相 財政の均衡策として增收のための增稅、經濟界の變動による負擔公平化の爲めの稅制改革等である

小川君 政府は利得稅を創設する意志はないか

高橋藏相 考へて居らぬ

小川君 民間の手持外貨邦貨の總額如何、又これを强制買上げし內債に借り替へるの意志はないか

高橋藏相 內地の外債公債は七億圓乃至八億圓である內債借替の必要があれば借替へる

小川君 財稅制の根本的基礎が確立する以前の過渡期に政府は公債の利拂だけなりとも確定財源を捻出すべきではないか

藏相 九年度豫算に赤字公債を計上しないといふ見極めがつかねば增稅はやれぬ

小川君 更に通貨政策につき日銀の公開市場政策は過度の通貨を抑止する趣旨なりや

藏相 然り

小川君 公開市場は政策で日銀に干涉するか、或は公債公募の意志なきや、通貨統制の目標如何

と藏相と渡り合ひ最後に爲替問題で藏相と應酬し零時三十五分休憩

軍縮代表引揚論は未だ尙早なり

＝海軍當局の見解＝

〔東京廿八日發國通〕聯盟總會が第四項を適用し我代表が引揚げる時は、軍縮會議代表も引揚げ又脫退せよとの論議されてゐるが海軍當局は左の理由から引揚げは早計だとの意見を有してゐる即ち

一、軍縮會議は聯盟國のみでなく、米國、露國も參加してゐるから軍縮そのものが行詰つたり日本に取り不利益とならざる限り引揚げは早計である

一、帝國國政は新提案をなしたのみで未だ一回も議場に於て說明せず討議もせぬから引揚げるのは新提案の重要性を沒却し誠意を缺く、新提案は佛、伊其の他諸國に歡迎される內容であるから充分說明し、三ケ國に納得させる

一、聯盟の情勢が極度に惡化し軍縮會議參加が無意味となつて後脫退すべきで現狀は左程切迫して居ない

英國代表エデン氏 新軍縮案を提出

〔ジユネーヴ廿七日發國通〕聯盟イギリス代表エデン外務次官は廿七日午後日、米、英、佛、伊、獨の軍縮代表部の軍縮新提案をなした右は政治的方面ではフランス案實際的にはフーヴアー案を基礎としてゐる

在滿蘇聯領事 中央の命で續々歸國

蘇聯對滿政策の刷新を圖る

〔ハルビン廿八日發國通〕當地外國筋の情報によればモスクワ政府はさきに在滿洲國各領事に對し夫々歸國命令を發した結果在滿洲里蘇國領事スミルノフ氏及び在大連領事メンニ氏は已に歸國し近くハルビン總領事スラウツキー氏同ボグラニチナヤ領事エゴーロフ氏も歸國する事になつて居るが在滿洲國蘇聯領事の歸國に就ては種々取沙汰されてゐるが右はモスクワ政府が在滿各領事を招致して對滿洲國政策の一大刷新を圖らんとする爲といはれてゐる

李杜の殘黨 殺人的寒氣で凍死

〔ハルビン廿八日發國通〕當地に達した情報によれば東部吉林省方面に於ける李杜の部下は指導者を失つた結果支離滅裂となり安住地を求めて續々引續き露領に逃入しつつあるが之等の兵匪の殘黨は殺人的寒氣の爲め森林地帶で凍死するもの多數に達して居る

李領事近く チタへ赴任

チタにも領事館設置

〔ハルビン廿八日發國通〕滿洲國初代の露領チタ駐任の李領事同山本副領事一行は來る二月八、九日頃ハルビン赴任の途に就く豫定である

居留民の保護、通商貿易を目的に滿洲國政府ではさきにブラゴエに最初の領事館を設置したが、今回更にチタに領事館を設置した、同領事には李垣氏が任命された、一行は二日四日頃新京を出發しハルビン、チ、ハルに立寄り十六日任地に到着の豫定である、到着と同時に居留民に對し謝外交部總長並に領事から布告を發することになつた、李領事はペトロフ大學を卒業し民國振出しに民國第一年國務院法政局參事キヤピタ都護副使に任命、同十五年北京守備隊總指令官に進み、同十六年退職したが、この間民國の重職に歷任した本年五十四歲である

同領事館員は左の如くである

領事 李垣
副領事 山本七郎
書記生 長谷川濱
同上 鄧根山
事務 北島情次
同 王稗天

なほ政府ではチタに續いてウラジオ、ハバロフスクに設置し、又滿洲里に政府の出張所を設けることになつた、全出張所長に齊榮錦氏が任命された

遼河地帶の匪賊根絕に奮戰

〔奉天廿八日發國通〕于芷山軍による遼河地帶の大討伐は着々と進捗し、各地で擊滅又は歸順を行ひつつあるが、匪首老北風、李純華、靠天、王全一等の行衞に關しては彼等は大勢の不利を看取し早くも退散して盤山、黑山兩縣の境界を經て奉山線を越へ何れにか逃げ去つたとも言はれ、又一說に熱河逃入說を流布し、その實は附近に潛伏してゐるとも傳へられて居るので討伐軍は一帶の各村落をしらみ潰しに大搜查を行ひ、匪賊の根絕を期すべく活動中である

上京中の 多田少將歸滿

〔大連廿八日發國通〕陸軍中央部と熱河問題其他重要問題打合せのため上京中であつた滿洲國軍政部顧問多田少將は廿八日午前九時半入港のアメリカ丸で着連したが、船中刺を通ずると「參謀本部陸軍省等と色々打合せがあつて上京した、熱河問題なぞ僕に分る筈がないぢやないか」と多くを語らず川島芳子孃其他の出迎を受け上陸したが午後四時半急行で新京に向ふと

上海事變紀念日に

大角海相語る

〔東京廿八日發國通〕本二十八日の上海事變紀念日に當り大角海相は左の如く語る

支那軍隊の不法なる攻擊に敢然と起ち、我陸戰隊は反擊膺懲したが是實に昨年の今日今夜で十倍に餘る敵に對し死力を盡して鬪ふ事十日間で平定したこの事は日露戰爭後潛在してゐた我傳統的國民精神の發動であつて我國民の協力一致が是をいたした、支那國民が其誤れる方針を改め、日支親善の常道に歸り東洋平和に貢獻せんことを希望する

施療慰問をも兼ね

內地の生命保險會社が滿洲進出

滿洲國建國以來日本商人の滿洲販路擴張に種々な方法を講じて居るが、日本の各生命保險會社も從來在滿日本人のみを目標とし（中には支那人も加入して居る）て居たのを、滿洲國建國以來種族々別なく加入せしめんと具体案研究中である、最近其生命保險會社は滿洲人の加入者獲得のため先づ滿洲國の社會事業から生命保險會社に親しみを持たせんと會社專屬の醫者を動員し醫藥業と共同戰線の下に滿洲國施療班を組織して第一線にある軍警慰問を兼ねて病める滿洲人を救ひついでに生命保險の必要を現はした映畫審查機等で慰問するはずである

敵彈軍刀に 天佑で一名を拾ふ

田中支隊長の奮戰

〔通遼二十七日國通飯田特派員發〕〇〇〇名の寡兵を自ら率ゐて昨二十六日草野機の行衞を威力偵察に向つた田中支隊長は目的地チヤラントラカイ東方に警近するや豫め部下に戰鬪準備を命じ接近しつつ部落に前進、同部落の東方二千米の

＝地點＝に近づくや突如敵の猛擊を受け支隊は猛烈な銃彈下に曝された、事に動せぬ田中支隊長は彈丸雨と飛ぶ中に毅然として射擊命令を下し應戰を命じた、戰鬪開始の命を受けた山砲隊長須藤中尉は勇躍〇門の山砲をそれぞれ適當の位置に据え試彈を放つて距離を測定し標準修正命令を發し或は砲擊目標を與へて奮戰せるが戰鬪將に盛なる頃一彈中尉の片手にせる指揮刀に命中中尉は危く一命を拾つたが、傳家の寶刀よく勇敢豪膽な中尉の身代りをつとめた譯である、戰鬪は時と共に愈々酣となる、折しも山砲隊鈴木一等兵は「隊長やられました」と一言、見れば右膝關節部をやられたらしい、續いて又一發服部上等看護兵は

＝右足＝を傷けたる鈴木一等兵を抱きあげ部落の陰に移し手當を施しつつあつたが、憎くき敵彈は服部看護兵の左胸下部を貫せ、鈴木一等兵を抱いたまゝどつと倒れるこの時附近の搜查に從つてゐる航空一等兵吉井正義君は心臟部に盲貫銃創を受け「やられた、後を賴むぞ」と、たゞ一言殘して倒れる、土壁に據つた敵の射擊は益々猛烈に正確に我將兵の頭上に集中、熊谷砲兵一等兵の左胸部をやられたのを始めに瞬く間に負傷七名を出す、軍醫看護兵は朔風をものともせず、套を脫ぎ捨てて應急手當に大童の活躍である味方の山砲は彈丸を殆んど打ち盡して了つた「彈丸が悉く無くなりました」といふが此處彼處で起る、敵の射擊は小面憎くも頑强に獨り退却の氣配も見えない、敵の後方には匪首劉師長の率ゐる乘馬隊が

＝突擊＝の戰機を窺つてゐる、

田中支隊長以下全員決死だ、この時恰もよし東方の空よりまつしぐらに空を翔り來る銀翼二つ、八木中尉の率ゐる二機編隊の〇〇〇機、續いて又一機偉大な長翼を風に孕ませ「地上の敵何するものぞ」と大爆音で地上を威嚇し、友軍の上空を飛ぶ、地上の我軍は十萬の味方を得たにも增して歡聲上り正氣漲り戰鬪愈々熾烈となる「布帆を出せ」の命を受けざるに逸早く「危險なりチヤラントラカイを襲擊せいよ」の布帆信號は地上より空の勇士に送られる、信號を見た空の怪物は「敵は我軍少數なりと計て抵抗するか、さらば目にものみせん」と二千米一瞬の餘裕を與へず忽ち起る大音響、大小の爆彈は次々と投下される、轟き渡る爆聲の大音響、本營をうたれた前線の敵は混亂狼狽、今までの頑强な抵抗も豹變、脫兎の如く

＝西方＝に向つて逃走したこの戰で二名の名譽の戰死者と若干の負傷者を出したが彈雨をくぐつて負傷兵の手當に活躍する軍醫、看護兵の自己犧牲の奮鬪は將兵一同感激してゐる

歲出增加で論戰

〔東京廿八日發國通〕前古未曾有の財政不均衡はどうなるかとの質問に對し、齋藤總理高橋藏相は、歲出では匡救事業は九年度において終了し、軍事費も漸次減少し、歲入においては景氣恢復し十年後においては均衡を得られんと樂觀論を述べたが、太田正孝氏によつて口火を切られ、小川鄕太郎氏の質問により軍事費は、九年度及び十年度においても增加すべき事が明瞭となつて來た即ち

一、海軍第二次補充計畫は閣議の諒解あり、三四ケ年繼續で總額四億六千萬圓、九年度以後は每年一億圓以上が兵備改善費として計上される譯である

一、陸軍の兵備改善費として十一年度までに四億一千萬圓を計上する譯である

斯くの如く觀じ來れば九年度以降の歲出は激增し高橋藏相齋藤首相の云ふ如く減少する譯なく從つて財政の不均衡は愈々增大の可能性あるから十年度において强いて均衡を圖らんとすれば新財稅の三大整理の敢行を要しその結果一大反動的を招く譯で憂慮されて居る

滿洲國に於る航空事業に就て（下）

陸軍航空兵中佐 島田隆一

現在學良の義勇軍と匪賊の跳梁に委ねられてゐる熱河省は滿蒙の寶庫と云はれて居りますが之が開發には航空機に俟つものが極めて多いと考へて居ります。斯樣な次第でありますので滿洲國の開發には航空機は眞先に考へなければならない問題でありまして此の重大なる使命を帶んで生れたのは昨年の秋創立せられた滿洲航空株式會社であります此の會社は滿洲國と滿鐵と住友合資會社の奉仕的出資になつた日滿合辦の會社でありまして現在會社の營業線として定期航空を實施して居りますのは新義州、奉天、新京、哈爾賓、齊々哈爾間及大連、奉天間一千三百五十粁でありますが近く新京、吉林、圖們を經て北鮮羅南に至る線、齊々哈爾、海拉爾、滿洲里線、齊々哈爾、大黑河線、奉天、錦州、熱河線等が開設せられますので總航空線は三千數百粁となるのであります。尤も現在に於きましても關東軍は作戰上の必要に基きまして新京＝龍井村間、哈爾賓＝佳木斯＝富錦間、哈爾賓＝寧安間、哈爾賓＝海倫＝齊々哈爾間＝齊々哈爾＝海拉爾＝滿洲里間等に定期航空をやらせて居りますので、會社の實施して居ります總航空路は、三千百六十粁と云ふ、最大なものになるのでありまして、日本航空輸送會社の、營業線に比べて殆んど二倍に近い距離となるのであります」而して滿洲航空會社の航空路は新義州に於て內地航空路と連絡し、冬期は大阪＝哈爾賓間を二日間で夏期は東京＝齊々哈爾間を二日で連絡し得る樣「ダイヤグラム」を編成して居ります、滿洲航空株式會社としては單に定期航空に任ずるばかりでなく或は治安の維持に、或は測量に、或は資源の調査に前に述べました滿洲開發に關係ある各般の業務に服し滿洲開發に寄與して居るのでありますが私は更に此の機會に於て滿洲航空に與へられてゐる國際的使命につきまして是非一言しなければならないのであります。滿洲航空は之を國際的に見ますれば日本を基點として滿洲大陸へ通ずる大幹線の連鎖をなすと共に亞細亞大陸に延びて行く足場をなすのであります。ソビエツト聯邦の西伯利線は現在イルクーツク迄延びて居ります滿洲里とイルクーツク間は僅かに八百粁でありまして之を結びつければ東京と伯林や倫敦とは完全に連絡せられ汽車を利用するのに比べて時間を三分の一に短縮することが出來ますが將來夜間設備が完成すれば僅か二晝夜で伯林や巴里へ到着することが出來まして一週間暇があるから一寸巴里を見物して來ると云ふ樣な時代の來るのも遠くはないと思ひます斯くて日本と歐洲との距離は時間的に非常に短縮せらるるのであります尤も從來西伯利線は技術的に見て冬期運航は出來ないではないかと云ふ議論もあり從來歐洲から極東方面への航空路を研究する場合に議論の的となつたのでありますし現に私共が滿洲航空を研究します時にも齊々哈爾以西は冬期は休航しなければならないのではないかと考へて居たのであります然るに事實は全く之に反し現在零下四十幾度と云ふ寒さで何等の故障もなく航空機が自由自在に活動してゐるのでありまして相當の設備をすれば溫度の低いのは大して問題でないことがわかりましたから今後滿洲航空の成立と共に西伯利經由歐亞連絡航空路の大幹線は非常な發達をなすものと見ることが出來ます。又現在割合文化の遲れて居る亞細亞大陸の開發には航空機を利用しなければならないと思つて居りますが此亞細亞大陸への進出は滿洲航空を足場として將來南は青島、上海西は北京、天津を經て中支那方面へ更に亞細亞の內地と連絡し之が開發に直接間接に關與することになるべき勢にあるのであります尙最後に滿洲航空の使命として考へなければならないことは日本と滿洲との距離引いては歐亞連絡大幹線の距離を短縮することでありまして新京と大阪とを直通すれば現在の九州、朝鮮を經由する航空路が大阪、新京間を十三時間餘りを要するのに較べて之を直通すれば六＝七時間で足り時間的に數時間の短縮となり樂に一日で結ぶことが出來るのであります。或は東京から新潟附近を經て直接浦鹽、哈爾賓を結ぶ線も考へられるのでありまして此の何れかは近き將來に於て是非實現させなければならないと思つて居ます斯樣に考へて來ますと滿洲航空の使命も亦以て大なりと云はなければならないのであります、之を要するに滿洲の航空事業は現在滿洲航空株式會社に依つて代表せられて居りますが滿洲航空株式會社は只今申しました樣な大きな使命を帶び洋々たる前途を以て滿洲の開發に活動して居るのであります。恰も內地に於きましても非常な勢で航空に對する國民の熱度が最高度に達して居ります時機に際會しまして滿洲航空の發展は日滿兩國の爲誠に慶賀すべきことでありまして今後益々之を指導發達せしめなければならないと思ひます。之にて私の講演を終ります

人事往來

▲加納大佐（第〇〇團參謀）二十八日午後三時三十分來京滿洲屋旅館へ
▲多田少將（滿洲國軍事最高顧問）二十九日午前八時歸京滿洲屋旅館へ投宿の予定
▲高橋少將（奉天兵工廠）二十八日午前九時奉天へ
▲井出治氏（實業家）二十七日午前八時來京滿鐵附[illegible]
▲若槻太郎氏（奉天日報）二十七日午後四時來京[illegible]旅館へ
▲小野大尉 二十七日[illegible]京新京旅館へ
▲山本大尉 二十八日[illegible]京新京旅館へ
▲小野憲兵大尉 同上
▲宮林大尉 同上

新京中學校の開校準備進む

願書の締切は二月十五日　三月七八日に考査

近く關東廳の正式設立認可を見るであらう新京中學校は段々開校期日も切迫して來るので創立事務所である新京地方事務所では四平街以北の各小學校に入學希望者その他につき照會をなすると共に萬遺憾なき準備を進めて居るが入學願書受付締切並に入學考査日は他の中學校と同期日で二月十五日締切（願書受付地方事務所地方係）三月七、八兩日新京商業學校で入學考査が行はれる而して入學期日は他の中學校の入學日にあまり遲れざる限り專任校長の決定後適當な日を選ぶ事になつてゐる尚募集人員は既報の通り百名で以後毎年度百名宛完成年度は昭和十二年度定員五百名で昭和九年度より校舍寄宿舍の新建築を始めこれが使用に於る迄は商業學校の一部を使用することになつてゐるが生徒增加收容困難なる場合は舊普通學校校舍（現滿洲國外交部總長公館）或は地方事務所の三階等適當な建物を求める筈である

初代校長は　矢澤邦彥氏に內定

〔大連廿八日發國通〕來る四月の新學期より開校する新京中學校長は現鞍山中學校長矢澤邦彥氏に決定、監督官廳の許可あり次第正式に任命の筈である

白衣の勇士　傷々しく凱旋

〔大連廿八日發國通〕去る廿六日朝着連し二日間大江衛戍病院に靜養した小越大尉以下北滿各地の討匪戰にて傷いた白衣の勇士七十七名は小出二等軍醫以下十名に付添はれ午後四時出帆　照國丸で凱旋の途についたが埠頭には小川市長始め各團体市民多數の盛大な見送りがあつた

青年訓練所　感謝狀を授與さる

新京青年訓練所は滿洲事變に際し活動當時の軍司令官本庄中將から左の如き感謝狀を授與された

感謝狀

長春青年訓練所

昭和六年九月十八日滿洲事變勃發するや貴所職員生徒は奮然として蹶起し直に武裝し一部を以て領事館を主力を以て附屬地內の警備に任じ獨立守備步兵第四中隊及獨立守備步兵第一大隊をして後顧の憂なく戰鬪せしめたりこの間或は御眞影を領事館より附屬地に奉遷し或は衛生部員を授けて寛城子及南嶺における死傷者の收容に任じ或は城內公安隊の武裝解除に協力する等流言蜚語と危險を顧みず毅然として犧牲的精神を發揚せり尚ほ戰死者の火葬に當りては火葬場の構築其他一切の處置を援助せしのみならず滿洲國建設に際しては炎熱飢餓を忘れて晝夜兼行之か作業に從事し軍の作戰を容易ならしめたり又皇軍の發著毎に常に率先して軍需品の運搬道案內等をなし遺憾なく訓練の精華を發揚せり

以上の行動は盡忠報國の發露にして獨り皇國青年の龜鑑たるのみならず滿洲事變史上に不朽の光彩を添へたるものなり茲に其奮鬪を錄して深甚なる謝意を表す

昭和七年八月七日

關東軍司令官本庄繁

松浦博士の講演

一月三十日午後七時より新京高等女學校講堂に於て前京都帝大教授松浦有志太郎博士の「滿洲の衛生生活及生活改善」と題する講演會が催さる

新京警察署　六七年度犯罪件數

新京警察署司法係では昭和六、七年度犯罪件數比較表作製中の處本日その完成を見たが右によれば左の如く七年度は六年度に比し百六十七件の增加で犯罪の種類は竊盜が斷然多く增加の理由も人口增加に伴ふ竊盜犯の增加によるものである

六年度
犯罪件數　一〇九〇件（內竊盜犯八〇〇件）
檢擧件數　六七六件

七年度
犯罪件數　一二五七件（內竊盜犯一〇三〇件）
檢擧件數　七九八件
增加　一六七件

戶外運動の普及を望む

滿洲國民政部衛生司
保險科長　楊恰銓

吾々在滿人は永き永き冬の間一年中の約半歲も餘り戶外に出でる事尠く特に婦人及學齡期以前の小兒の如きは一日中一度も戶外に出でる事無く、而も二重窓內に閉ぢ籠つて其の周圍の空氣內に人體に最も惡い瓦斯其の他のもの發生し據く汚染される事も氣附かず其の上運動不足に陷り自然知らず知らずの間に自體に及ぼす惡影響は頗る甚だしき事ではないかと思はれます

一般に滿洲の住居は窓硝子は大概二重に作られ、其の上室內採煖の爲內部にてはスチーム或はペチカの類にて盛に熱し、窓は完全に隙間無き樣目張等して殆ど外氣の侵入を防いで居る有樣にて、一般住居內の換氣は頗る不充分なのであります

次に吾人身體の育保健に最も大影響ある日光紫外線の如き滿洲においては冬期比較的其の量が少いのでありますが上に、普通窓硝子は紫外線を室內に透入することは全く不可能とされて居るのであります

斯くの如き有樣にて半歲の長き間蟄居生活を續け惠まれたる日光にも浴さず、全く天然に有り餘る新鮮なる空氣も吸はず自然に感冒に罹つたり其の他色々健康を害し、ひいては或は肺結核或は肺炎等種々萬人の最も恐るべき病源を知らず知らずの間に造つて居ると言ふ事は吾人人體の發育並に保健上非常に考へねばならぬ事と思はれます、然らば如何にして一般の人々に此の天惠の新鮮なる空氣と宏大なる日光紫外線等の恩惠に浴せしめ、益其の身体をして發育を助長し且健康保持の上に好結果を得さしむるかと言へば、總て老も若きも男も女も各人努めて戶外に出て潑剌たる氣分を養成すると共に永き蟄居生活より解放され、健康增進身体鍛育を計る樣にするより他に道無き事と思はれます

それには是非一般何人にも頗る簡易に出來る戶外運動等普及する事が最も肝要であると痛感するのであります

私は全く運動方面は門外漢でありますが、滿洲に於ける冬季戶外運動と申せばスケートの類に限られて居る樣でありますが、是非運動專門家各位に依り最も適當にして萬人擧つて之を實行し得る戶外運動の速に普及指導されんことを切望致すものであります

彩票五千圓の

まだ受取り人がない　迷ひ兒の迷ひ兒の　三〇五八二番ヤーイ！

賣れろ！賣れろ！滿洲國で發賣して居る水災窮民救助の彩票は發賣以來回を重ねる每に素晴らしい賣行で每日抽籤日の十四日までに十五萬枚の

『彩票』が一枚も殘さず賣切れるといふ賣行である、これは日滿兩國人が昨年北滿の大水災の爲めに窘窮してゐる窮民の義捐救助といふ義俠心が彩票の購買心を唆つてこの素晴らしい賣行を示してゐることと勿論であるが、中には慾と義俠の二途かけこの世智辛い世の中にヒヨツトしたら僅か一元の資本で頭彩の二萬元が轉げ込みはせぬかと隨分慾の皮を突張らした連中の中に、これは又何としたことか第三回目の彩票然かも締切り間際の一月十二日頃日本橋通の寶洋行から賣出した彩票番號三〇五八二番が抽籤の結果二彩の五千元に當籤してゐる、前後の三〇五八一番と三〇五八三番の袖番白元は迅くに取りに來たが、本家本元の三〇五八二番の五千元はどこに迷ひ兒になつたものか、未だに

『受領』の申出者がない、彩票を買ふ當初から水災窮民義捐だといふので當籤なんか齒牙にもかけず破つて棄てた無慾の人か、それともお國の爲めだとあつて新聞も讀めない奧地に匪賊討伐にでも出かけてゐる人の手にでもあるのか？慾しいものだ、もつたいないものだと五千圓當選の彩票の行方を圍る街の噂がかまびすしいこと……

君！酉年だよ　早く嫁を貰へ

今年になつてから　神前結婚はや四組

中年も去つて縁起のよい酉年の訪れとインフレ景氣、新京景氣も手傳つてかあちらでもこちらでも結婚大流行である、この分で行けば四月五月の結婚期になれば彼氏と彼女のホーム汎濫時代を現出しさうだ、本年に入つてから新京神社で神前結婚を行つた數だけでも四回、之に對し昨年の一月は一度もなかつた、さすがに酉年を思はせる、費用は十圓から五十圓位迄で、一番多いのは二十圓から二十五圓位の處、兎に角嚴肅で、迅速で、簡易な神前結婚が喜ばれてゐる

戀の巡禮者

橫領で取調べ　仁川から來た理髮屋

新京署司法係平林警部補は二十七日早朝から三十才前後の邦人男女を引致嚴重な取調を行つてゐるが、右は本籍・崎縣南高來郡中村字馬場上口嚴衛（三）及內縁の妻新井數子（三）で、上口は

『多年』朝鮮仁川で理髮業を營んでおつたが、昭和六年九月頃から京城鐘路二丁目東亞理髮器具株式會社の委託販賣をなして居た、處が七年四月頃から仁川敷島町遊廓丸山樓抱娼妓胡蝶事新井數子と馴染を重ね、足繁く通ひつめてゐる內に、委託物品二千四百圓を販賣、五百余圓を橫領費消し經營中の理髮屋を弟名儀に變更して群山の友人宅に一時身を潛めてゐた、然し胡蝶に對する戀情押へがたく十月廿一日群山から、書面をもつて水原迄おびき出し、胡蝶の叔母のゐる龍岩浦に逃走し、遂島リカカへ潛伏中を其の筋の手配によつて逮捕され、叔母の情で

『胡蝶』を身受し、思ひの儘つた二人は暫し安東三番通で理髮業を經營してゐたが、去る十一月來京、西三條通敷島寮へ止宿中であるのを知つた京城東亞理髮器具株式會社からの告訴で取調を受けてゐるものである

降誕祭で　赤色軍人も休む

〔モスクワ廿八日發國通〕蘇聯政府は建國以來宗教は阿片なりとの標語の下に宗教の撲滅運動を全國的に敢行して來たが國民に信仰を根抵より放棄せしむる事の困難なるに鑑み近時或る程度迄放任政策を執る傾向あるが陸海赤色軍人民委員長ウオロシロフ氏はこの程突如降誕祭に際し赤色軍人に休暇を與へる所あり異狀なセンセイションをまき起してゐるがおは信仰は國民の自由なりとの前提ではないかと取沙汰されてゐる

節分が近いよ

お化けの晩を賑かに　建國の春首都新京ですもの　丸髷もよござんしよ

來月三日は節分である、もちろん餘寒はあるが寒があけるので日一日と薄皮を剝ぐやうに寒さはらすらいで行き、うや氷にとざされた滿洲と麗らかな

『春光』に浴する日が近寄つて來る譯である、この節分、年中行事の一つに數へられる年越しもお化け、花柳界、カフエの女給、飯食店の女中に至るまで、假裝變裝を其筋は大道を橫行しない限り默許するのが古くからの實例になつてゐる、去年はまだ事變直後で悉く遠慮していあまりお化けの姿を見なかつたが、今年はまるで舞台が違ふやうなこの滿洲建國後始めて迎へた春、しかもその首都新京だ、大に景氣よく賑かにといふ話が花柳界を始め各方面で相談されてゐるから、いよいよ當日となつたらすばらしいのが見られるかも知れない、極おとなしいところで丸髷

『波氏』と手をつないで薄暗い活動小屋ではかない逢ふ瀨と丸髷ぶりを樂むものも相當あることと思はれる

滿電支店營業主任轉任

南滿電氣新京支店營業主任尾野四郎氏は大連本社へ榮轉三十日午後四時半發赴任後任は奉天支店から浦江氏が來任する

四十貫の猪　カフエーミツワ　新京署へ贈る

市內三笠町カフエーミツワは警官慰安の爲二十八日四十貫の大猪を寄附した

▲三笠のジユン子なかなかスゴイ腕をもつてゐる、去る日ハルビンから來た〇〇さんに特別な？サービスをする約束の下にヒロ子が仲介人となり何はともあれ先立つものをさ南嶺某所で〇の〇〇〇完了したが其の後ジユン子は特別のサービスはおろか見向もしないので馬鹿を見たのは〇〇さん、豆鐵砲を食つたハトの樣に目ばかりパチクリパチクリ▲ライオンのミヒトミ一見ロシヤ人と見違ふ日本人離れのした顏付で來る客々をノウサツしてゐます▲同じくシズ子至つて溫順でしとやかで內氣なそのはず目下失戀煩悶中だそうです……▲同じくキミ子なかなかのきけもの聲はウグヒスで、歌が得意で、サービスが良くつて、男をだます事が上手で、浮氣者でと……それから先は御想像通り

讀者らん

二十五日朝刊讀者欄所載の記事に就て伏見氏が持家を其他へ貸して夫婦が寺に寓居してゐると云ふ譯は、夫婦の居住に適した家屋の建築若しくは借家までの期間であつて、且つ寺としても手不足の際、寺務に精勵せる夫婦に居てもらふ方が萬事好都合なれば、是は投稿者の考の如き伏見氏の脫線的行爲でもなければ、又一般市民の御判斷を煩す迄もない故に當山建立に、際して御援助下された市民各位、特に寄附生なる御仁に御放念を乞ふ。（日本山妙法寺主任）

變幻黑船往來

（作）寺島柾史　（畫）布施長春

第十回　根岸の宿(三)

『……で、松井さん』

『なンだ』

『このさき、あたしはどうなるの？』

不審だ……といはぬばかりに。

少し考へた白軒は

『いはずと知れたことさ、金が出來たら、いよ〳〵あこがれの遠い旅だ』

事もなげにいふが、眉宇には、あなどりがたい剛健なひらめきをみせた。

『遠い旅……？そんならやはり、初志を貫かうとなさるのねえ』

『わかり切つたことだ、今更…』

『だけど……』

『おれはこんな島國で一生を終りたくない、おれの氣持をとうにわかつてゐてくれるおまへだ。むしろ一歩進んで世界を舞臺に活躍した方がよつぽど面白いと、おまへもそれに賛成だつたぢやないか。……現在の日本の狀態はどうだ。攘夷だの鎖國だのと、世界の大勢に無理解な、無學な輩が躍りにわめき立てゝゐる態は……いや要路の人はもちろん、國民等しく泰大の天地に泰平の夢をむさぼつて飽くことを知らぬさまは、哀れにも情ない。しかも過ぐる天保八年や嘉永六年の黑船來航に夢破られた幕府當局の周章狼狽振りはどうだつた？……それにもかゝはらず多くの先覺者を處刑したり悲壯な最後を遂げさせたりする當局の、いや國民の意志は、おれにはてんで理解できぬ。……おれはもう、こんな日本のやうな小天地で、徒らな巧名あせりをする氣は毛頭ないのぢや。西歐の天地で、日本男兒の氣概を示したい』

熱してくると、白軒のあばた顏にも、さつと血の氣がのぼる。それを横眼にみて、紫園は

『いつもながらの、あなたの氣焔きいてゐて飽かないわ。……ほんとうに男つて氣まゝなものさね』

『なに？』

『いやさ、さうなると、このあたしは一體どうすればいゝの？』

『まさか、野末のはてに棄てゝかへりみないあなたでもないでせうね。……ねえ、松井さん』

『……………』

『その、遠い旅とやらへ、あたしも連れて行つて下さるでせうねえ。まづ、それを承つておくわ』

紫園は、その若々しい身體を、そろ〳〵男に寄り添うていつて、怨みの數々をならべはじめる。

白軒は、なほも押默つてゐる。口をへの字に曲げ、眼を瞑つてゐるのがこの男の癖だ。

『默つてらつしやるところをみると、そこが不服だとでも仰しやるの？……このごろ妙によそ〳〵しい態度をなさるとおもつたら、それぢア、あたしを置いてけぼりにして、ひとりいゝ子になつて、外國へいらつしやる考へなのだね』

男の膝へ手を置いた。

そのとき、白軒はやつと口をひらいた。午後の薄陽の、醫院の明り障子に果々しく當つてゐるのをぼんやり眺めながら

『お愛、おまへのこれまでの心盡くし、白軒ただ感謝のほかはないのだ。……が、男のおれでさへ、きびしい掟を破つて外國へのがれるのは命がけの仕事だ。まして足手まとひの女子を連れてゆかれるものではない。……どうか、そのことだけは斷念してくれ』

『斷念……そりア松井さん、あなた本氣で仰しやるの？……そ、それぢやあんまりだわ』

『あんまり……とおもふだらう。事實おまへには氣の毒におもふ。が、千萬ない。しばらく日本に殘つて辛棒してゐて貰はう……時節がきて、おれが無事に歸朝したあかつきには、また晴れて添ふこともできるだらう』

白軒は、たん然と應したまゝ、あくまでも冷やかだ。それがまた、いつさう女を激立たした。